

兵庫・祢布ヶ森遺跡

第一九次調査出土木簡（続）

兵庫県日高町の祢布ヶ森遺跡は、県北部を北流する円山川中流域左岸、標高約三〇mの小扇状地先端部に位置している。遺跡は広範囲に及び、従来調査で検出されている遺構や遺物、特に遺跡の所在する旧気多郡以外の但馬の郡名を記した題籤軸が出土したことから、但馬国府跡（延暦二三年移転後）と考えられる遺跡である。

既に本誌一八号において、日高町教育委員会が一九九五年度に実施した第一九次調査で出土した木簡を報告したが、その後の整理作業で、二間×九間の南北棟の掘立柱建物の柱穴の掘形の中に、さらに一点の削屑があることがわかった。釈文は

□ □ (6.2)×(0.5)×0.5 081

断簡であり判読不能である。また、この建物に並行して走行する溝からは、土器に付着した漆紙が出土しており、今後の精査が期待される。

（加賀見省一）